

市立伊丹病院あり方検討委員会 第二回資料

平成30年7月23日 伊丹市

目次

- 「市立伊丹病院あり方検討委員会」検討項目とスケジュール(予定) P. 3
- 第一回委員会の要旨と第二回委員会の議論内容 P. 4
- 高度急性期病院の収益構造 P. 6
- 市立伊丹病院と公立学校共済組合近畿中央病院の連携協議に関する協定書 P. 10
- 市立伊丹病院と近畿中央病院の現状 P. 12
- 市立伊丹病院と近畿中央病院の連携のあり方 P. 23

第一回あり方委員会での議論内容を踏まえ、各委員会での検討項目を以下の通り見直しました

「市立伊丹病院あり方検討委員会」検討項目とスケジュール(予定)

年月	委員会開催	検討項目等(見直し前)	検討項目等(見直し後)
平成30年 6月4日	第1回 委員会	議題1:市立伊丹病院あり方検討委員会の公開の取り扱い 議題2:高度急性期医療を担う中核病院の必要性	
7月23日	第2回 委員会	議題:市立伊丹病院の建替えの最適な時期 議題:安定的運営を実現させる病床規模	議題: <u>他の基幹病院との連携のあり方</u>
8月13日	第3回 委員会	議題:最適な立地場所の検討 議題:他の基幹病院との連携のあり方	(具体的なあるべき姿を踏まえ) 議題: <u>高度急性期医療を担う中核病院の必要性</u> 議題: <u>安定的運営を実現させる病床規模</u> 議題: <u>市立伊丹病院の建替えの最適な時期</u> 議題: <u>最適な立地場所の検討</u>
10月	第4回 委員会	検討委員会報告書(素案)	検討委員会報告書(素案)
11~12月	第5回 委員会	検討委員会報告書(案)	検討委員会報告書(案)
平成31年 1月	報告書報告		

第一回委員会の要旨と第二回委員会の議論内容

第一回あり方委員会では、各委員より阪神北圏域における高度急性期提供機能を有する病院設置に対する積極的な意見が得られた結果を受け、本日は具体的な病院の医療機能と運営のあり方に関してご議論いただきます

第一回あり方検討委員会の要旨

医療機能面	運営面	経営面
<ul style="list-style-type: none">■ 阪神医療圏においては、南圏域に高度医療を提供する施設が集中しており、北圏域からの患者流出が多いため、北圏域でも一定の高度急性期医療を提供する施設は必要である■ 阪神南圏域において、災害時に高度急性期病院が機能しなくなった際に、そのセーフティーネットとしての役割を担う上でも、阪神北圏域に高度急性期機能は必要である■ 市立伊丹病院がどうあるべきかに関して、近畿中央病院と連携したらどうなるかを具体的に議論すべきである	<ul style="list-style-type: none">■ 限られた医療従事者・医療資源を有効に活用していくためには、それぞれの病院が競合することなく、果たすべき役割を明確にしたうえで、役割分担・連携強化を図っていく必要がある■ 北圏域で高度な医療を提供していくには、北圏域内の病院が連携していく必要がある■ 流出の多い循環器疾患などの患者に対応するためには、費用面や医療提供体制面の充実が必要であるが、現状の病院で単独で実施するのは非常に困難であるため、病院間の連携での強化が重要となる	<ul style="list-style-type: none">■ 高度急性期病院を設置しようとした場合、健全経営ができるようなプランにすべきであり、経営が安定するためにはどの程度の収益(患者数・単価)を上げることが求められるか検討する必要がある■ 患者数や単価を検討する際に、現状で市外へ流出している患者をどれくらい防げばよいかなどの目標に関して認識した上で検討をしていく必要がある

第二回あり方検討委員会の議論内容

本日の資料と議論いただきたい内容

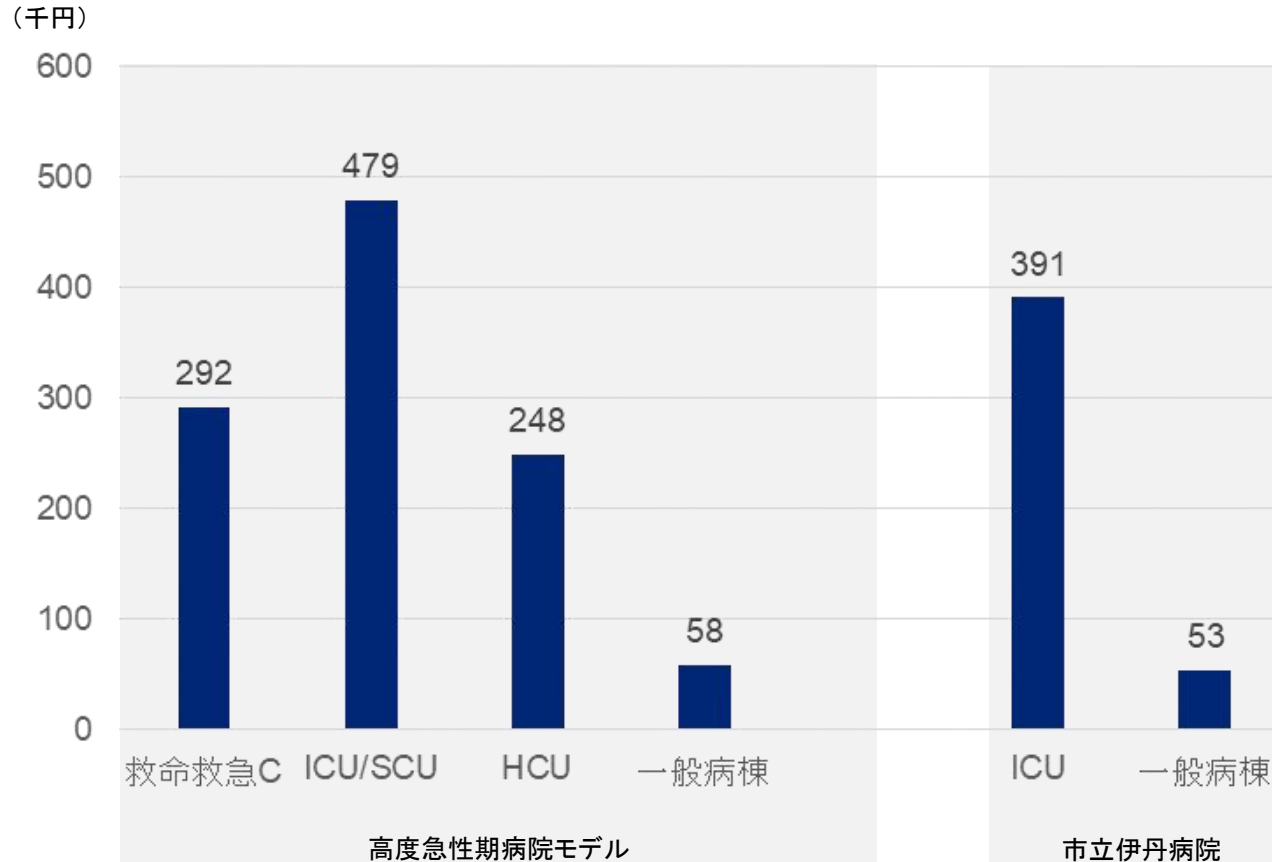
■ 市立伊丹病院と近畿中央病院の連携のあり方に関して

現在、両病院で検討している連携に関するパターンと、両病院が連携することで目指す医療機能と提供体制に対するあり方をまとめました。各パターンに関してご検討いただき、あるべき機能と体制に関して議論いただきたいと思っております。

高度急性期病院の収益構造

ICU等は、診療密度により非常に高い入院単価となり、市立伊丹病院のICUの単価も同様となっています

高度急性期病院と市立伊丹病院 機能別病床単価



ICU等は手術など医療提供密度の濃い患者を受け入れる病床であり、単価は非常に高い

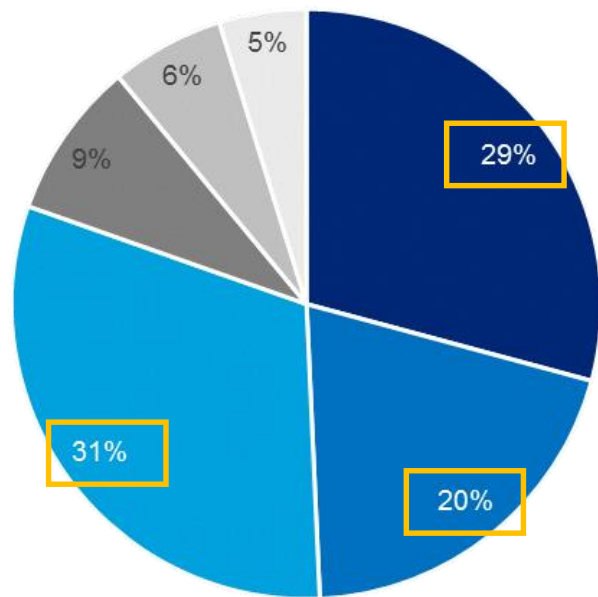
* ICU等； ICU、CCU、SCU、救命救急センター、HCU等の重症病床を総称として ICU等としている

* 高度急性期モデル； 600床台・500床台の高度急性期病院2病院のデータを参考に作成

出所； 市立伊丹病院受領データ

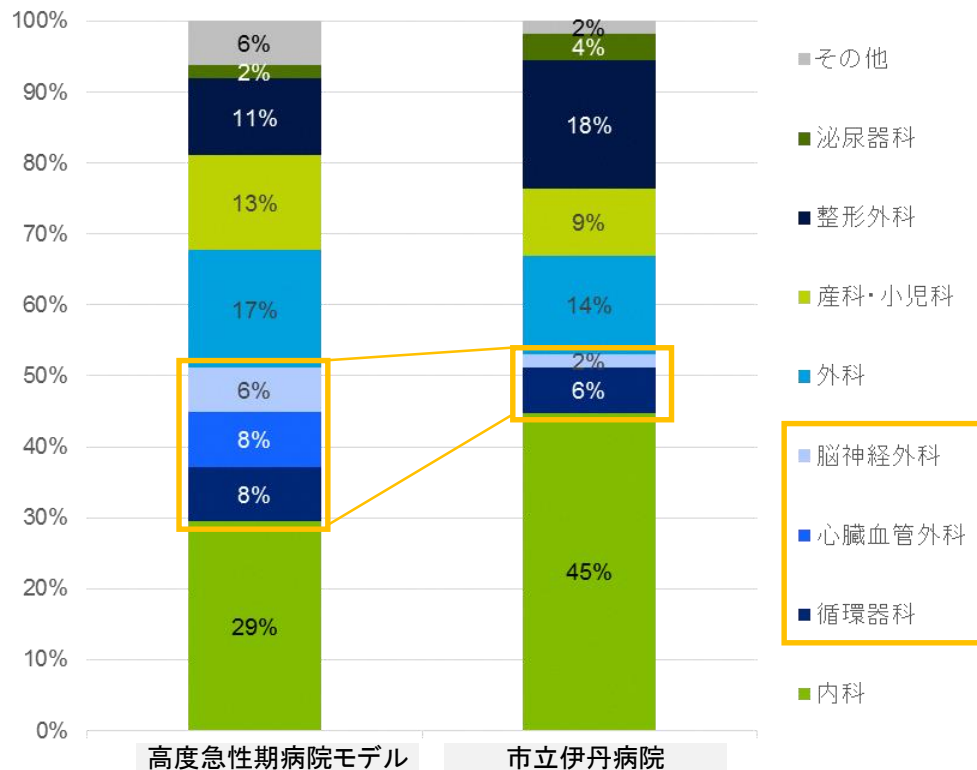
ICU等を運用するためには、循環器系疾患や重症患者の救急搬送の受け入れを強化する体制整備が必須であると考えられます

高度急性期病院モデル ICU等の患者構成



■ 循環器・心臓血管外科 ■ 脳神経外科 ■ 救急科 ■ 外科系 ■ 内科系 ■ その他

高度急性期病院と市立伊丹病院 診療科別病床構造



市立伊丹病院は内科系の患者が多くを占めているのに対し、高度急性期モデルは循環器系疾患の患者構成率が高い

ICU等へ受け入れる患者は主に循環器系疾患の患者であり、救急で搬送される重症患者が多く構成されている

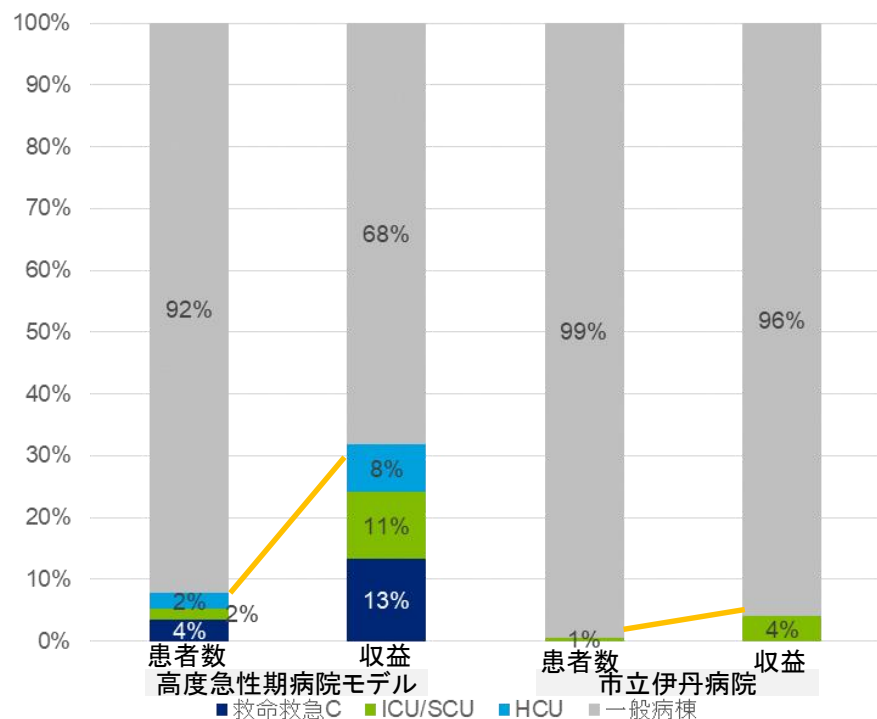
* 診療報酬と高度急性期病院の診療内容を元に作成

* 高度急性期モデル； ICU等を高い稼働率で運用している600床台の高度急性期病院のデータを参考に作成

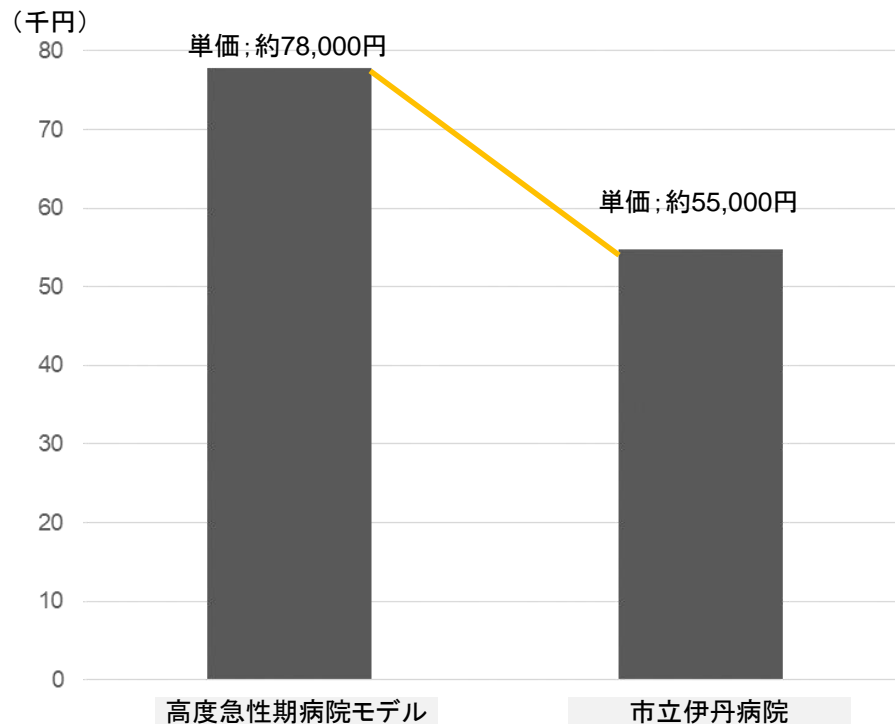
出所； 市立伊丹病院受領データ

高度急性期病院は、ICU等に受け入れる患者が収益の大きな部分を占める構造であり、単価へも大きく影響するため、重症患者の受け入れ数は収益面でも大きな論点となります

高度急性期病院と市立伊丹病院 収益構造



高度急性期病院と市立伊丹病院 単価



高度急性期病院は約8%のICU等の患者で約32%の収益を占めている

左記の高度急性期病院の収益構造では単価は約78,000円程度となる

* 高度急性期モデル：患者構成：全国の高度急性期の24自治体病院が保有するICU等病床と一般病床数の構成の平均値で算出 収益：左記患者構成×前ページの各病床の単価で算出

市立伊丹病院と公立学校共済組合近畿中央病院の 連携協議に関する協定書

伊丹市と公立学校共済組合は、今年2月に以下の協定書を締結しており、今後の連携に対して最善のあり方を検討しています

市立伊丹病院と公立学校共済組合近畿中央病院の

連携協議に関する協定書

伊丹市（以下「甲」と、公立学校共済組合（以下「乙」）は、市立伊丹病院（以下「甲病院」）と公立学校共済組合近畿中央病院（以下「乙病院」）の連携に関する協議について、下記のとおり協定を締結する。

記

（目的）

第1条 この協定は、甲と乙が、甲病院と乙病院の連携に係る協議を行うことに關し、必要な事項を定めることを目的とする。

（協議事項）

第2条 甲と乙は、本協定に基づき、次の各号に掲げる事項を安定的に実現するための甲病院と乙病院の連携体制について協議するものとする。

- (1) 甲の市民が必要とする医療の提供
- (2) 乙の組合員が必要とする職域機能の提供

（検討範囲）

第3条 甲と乙は、本協議における検討範囲をあらかじめ限定せず、協力、提携、支援、統合等あらゆる形態を対象として協議を行うものとする。

（地域医療構想等）

第4条 甲と乙は、本協議に際し、甲に關連する地域医療構想の進展及び乙の職域事業の展開に充分配慮するものとする。

（期限）

第5条 甲と乙は、平成31年3月31日までに本協議の結論を得るよう、互いに努力するものとする。

（関係者への説明等）

第6条 甲と乙は、本協議を進めるに当たり必要とされる自己の関係者に対する説明については、各々が責任をもって対応するものとする。

（守秘義務）

第7条 本協議の内容については、その全てに守秘義務が課されるものとし、甲乙双方が合意した場合に限り、合意した範囲の事項を公表できるものとする。

（協議への協力）

第8条 甲と乙は、本協議を円滑に進めるために互いに協力し、調整が必要となった場合には双方が誠意をもって対応するものとする。

この協定を証するため本書を2通作成し、甲乙双方署名捺印の上、各1通を保有する。

平成30年2月14日

甲 兵庫県伊丹市千僧1丁目1番地
伊丹市
伊丹市長 藤原 保 幸

乙 東京都千代田区神田駿河台二丁目9番5
公立学校共済組合
理事長 金森 越 哉

市立伊丹病院と近畿中央病院の現状

市立伊丹病院と近畿中央病院は、伊丹市内の2次救急を担う急性期病院であり、医療機能に大きな差はなく、それぞれ建て替えの検討、あるいは実施時期となっています

市立伊丹病院と近畿中央病院の概要

平成30年4月1日現在

項目	市立伊丹病院(伊丹市昆陽池)	近畿中央病院(伊丹市車塚)
開設日	昭和32年9月	昭和31年7月
開設者	伊丹市長	公立学校共済組合 理事長
管理者・院長	【管理者】中田 精三 【院長】飯石 浩康	【院長】有田 憲生
病床数	許可病床：一般 414床 (うち、ICU・CCU5床、NICU10床、無菌治療室2床、人間ドック9床) 稼働病床：402床	許可病床：一般 445床 (一般408床 人間ドック37床) 稼働病床：398床
職員数	539名(内専攻医13名)	622.5名(委託職員含まず)
看護体制	看護配置 7:1	看護配置 7:1
施設概要	鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階、地上6階、塔屋2階建 敷地面積：25,623.51㎡ 延床面積：27,871.52㎡	鉄骨鉄筋コンクリート造/外来診療棟(地上3階)/病棟(地上7階) 敷地面積：23,692.46㎡ 延床面積：29,791.25㎡
診療科目	内科、消化器内科、呼吸器内科、 血液内科 、糖尿病・内分泌・代謝内科、循環器内科、老年内科、アレルギー疾患リウマチ科、心療内科、精神科、小児科、小児外科、外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、皮膚科、形成外科、眼科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科	内科(呼吸器、消化器、内分泌、免疫、 腎臓)、循環器内科、精神科、 神経内科 、小児科、外科(呼吸器外科、乳腺外科)、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科(放射線診断科、放射線治療科)、臨床検査科、病理診断科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科
病院の特色	市立伊丹病院は、市民が安心して、必要な時に必要な医療を受けることができるよう、伊丹市が設置している地域の中核病院です。そのため、29診療科と4センターを持つことで、広く医療提供が出来ることと救急医療の提供に重点を置いていることが特徴になっています。 〈センター等〉 内視鏡センター、人工関節センター、糖尿病センター、呼吸器アレルギー診療センター	公立学校共済組合は、地方公務員等共済組合法に基づいて設立された文部科学省認可法人として各市町村の公立学校教職員や都道府県教育委員会に所属する職員などにより組織されています。公立学校共済組合の福祉事業の一環として全国に8つの直営病院が運営されており、近畿中央病院はその1病院として公立学校共済組合員のみならず、一般の方々にもご利用いただき地域医療に貢献しています。 〈センター等〉 健康管理センター(人間ドック)、人工透析室、リハビリテーション室、内視鏡センター、呼吸器センター、遺伝子診療センター、生活習慣病センター、メンタルヘルスセンター

市立伊丹病院と近畿中央病院の特色と課題

市立伊丹病院

地域連携にも力を入れており、新地域医療支援病院紹介率が約80%、新地域医療支援病院逆紹介率約90%となっています。

各診療科においては、専門的医療の提供に力を入れており、外科系診療科の手術件数は約3,800件で、内全身麻酔は約1,800件となっていることと、それらを支える人材に関しても約130以上の専門医の資格を持った医師をはじめ、多くの学会認定の資格を持った看護師や検査技師が在職しています。

特に**整形外科**では、膝と股関節の人工関節置換術において年間約600例の手術を実施しており、阪神間だけでなく国内においても屈指の施設となっております。また、脊椎では年間約200例を越え、その他の外傷症例においても阪神北地域での拠点施設となっております。

一方、医療機器の整備についても、3テスラと1.5テスラのMRIが各1台をはじめ、マルチスライスCTやIMRTを実施できる放射線治療装置などが整備され、多くの医療機器が設置されています。

脳卒中や心不全などの循環器系疾患に係る循環器内科や脳神経外科などにおいて、専門的な医療提供は実施することができているが、診療科の人的体制が十分ではなく、24時間365日の救急医療に対応ができていない状況にあります。

近畿中央病院

地域連携に力を入れており、平成29年度紹介率が約63.8%、逆紹介率約94.9%となっています。

医師が直接対応するホットラインを設置して、**循環器内科**、**脳神経外科**・**神経内科**が実績を積んでいます。平成29年度救急患者は6,517件で、救急車搬送は2,290件でした。手術件数は平成29年度3,687件で内全身麻酔は約1,702件となっています。

それらを支える人材に関しても約100人の専門のライセンスを持った医師をはじめ多くのライセンスを持った看護師や検査技師が在職しています。

医療機器の整備も平成30年4月に稼働したIMRTの実施出来る放射線治療装置、1.5テスラのMRI、マルチスライスCT、アンギオ装置などが整備され多くの医療機器が設置されています。

公立学校共済組合の病院として、近畿2府4県の教職員の健康管理、メンタルヘルス管理を担っています。

夜間、土日の救急受入れ体制は、当番医師が限られていることから、十分な受け入れ態勢を築けていません。

特色

課題

医師数は、循環器内科は市立伊丹病院で5.7名、近畿中央病院で7.2名で、脳神経外科は、市立伊丹病院で1.0名、近畿中央病院で3.0名となっており、心血管疾患、脳血管障害などの重篤な循環器系疾患への対応が困難な体制です

市立伊丹病院と近畿中央病院の医師数の内訳

平成30年4月1日現在

	市立伊丹病院					近畿中央病院				両病院合計	
	正規	研修医/専攻医	非常勤	外来応援	計	正規	研修医/専攻医	非常勤・外来応援	計		
内科	消化器	9	3	0.6	0.5	13.1	5	1	1.4	7.4	20.5
	呼吸器	7	1			8.0	6	1	0.1	7.1	15.1
	循環器	5			0.7	5.7	6	1	0.2	7.2	12.9
	血液	3		0.9		3.9	—	—	—	0.0	3.9
	糖尿病他	3	1	0.8		4.8	—	—	—	0.0	4.8
	内分泌	—	—	—	—	0.0	2			2.0	2.0
	老年	3				3.0	—	—	—	0.0	3.0
	総合診療	—	—	—	—	0.0			0.4	0.4	0.4
	アレルギー疾患 リウマチ科	4	1			5.0	—	—	—	0.0	5.0
	免疫	—	—	—	—	0.0	3	1		4.0	4.0
	腎臓	—	—	—	—	0.0	3	1	0.1	4.1	4.1
	人間ドック			0.3	0.1	0.4	—	—	—	0.0	0.4
	神経内科				0.3	0.3	3		0.2	3.2	3.5
	小計	34	6	2.6	1.6	44.2	28	5	2.4	35.4	79.6
	精神科/心療内科				0.4	0.4	1		0.5	1.5	1.9
	小児科	5	1	1.8		7.8	2			2.0	9.8
外科	6				6.0	6		1.0	7.0	13.0	
呼吸器外科	2				2.0	1			1.0	3.0	
乳腺外科	1		1.0	0.2	2.2	1			1.0	3.2	
整形外科	9	3			12.0	3		0.1	3.1	15.1	
脳神経外科	1				1.0	2	1		3.0	4.0	
小児外科				0.1	0.1	—	—	—	0.0	0.1	
皮膚科	1	1			2.0	2		0.2	2.2	4.2	
泌尿器科	4			0.1	4.1	3		0.1	3.1	7.2	
産婦人科	8		0.3		8.3	3	1	1.3	5.3	13.6	
眼科	2		1.0	0.4	3.4	4	1	0.2	5.2	8.6	
耳鼻咽喉科				0.3	0.3	3			3.0	3.3	
形成外科	2				2.0	1		0.1	1.1	3.1	
放射線診断科	3	1		0.3	4.3	3		1.6	4.6	10.9	
放射線治療科	2				2.0						
歯科口腔外科	3				3.0	3			3.0	6.0	
麻酔科	4			2.8	6.8	3		0.9	3.9	10.7	
病理診断科	1	1	0.8	0.2	3.0	2		0.1	2.1	5.1	
健康管理科(センター)	—	—	—	—	0.0	2		1.1	3.1	3.1	
リハビリ科	—	—	—	—	0.0	1		0.2	1.2	1.2	
心臓血管外科	—	—	—	—	0.0	—	—	—	0.0	0.0	
事業管理者	1	—	—	—	1.0	—	—	—	0.0	0.0	
小計	89	13	7.5	6.4	115.9	74	8	9.8	91.8	207.7	
臨床研修医	—	21	—	—	21.0	—	11	—	11.0	32.0	
合計	89	34	7.5	6.4	136.9	74	19	9.8	102.8	239.7	

両病院の5疾病に対する提供体制は以下のとおりで、おおむね同程度であり、外科的治療が必要な脳卒中、心血管疾患に対する体制が十分ではありません

市立伊丹病院と近畿中央病院の医療提供体制(5疾病への対応)

	市立伊丹病院	近畿中央病院
がん	<ul style="list-style-type: none"> ■ 兵庫県指定がん診療連携拠点病院 ■ がん登録件数； 1,198件(平成28年) ■ 緩和ケアチームの介入件数 74件(平成28年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 厚生労働省指定がん診療連携拠点病院 ■ がん登録件数； 664件(平成28年度) ■ 緩和ケアチームの介入件数 233件(平成28年度)
脳卒中 (脳血管疾患)	<ul style="list-style-type: none"> ■ CT検査、血管連続撮影等検査の24時間実施；○ ■ 血栓回収療法等が24時間当直体制で実施；× ■ 血栓溶解療法(t-PA)が24時間実施；○ ■ 外科的治療の2時間以内の開始；○ ■ 急性期リハビリテーションの実施；○ ■ SCUなし 	<ul style="list-style-type: none"> ■ CT検査、血管連続撮影等検査の24時間実施；○ ■ 血栓回収療法等が24時間当直体制で実施；× ■ 血栓溶解療法(t-PA)が24時間実施；○ ■ 外科的治療の2時間以内の開始；○ ■ 急性期リハビリテーションの実施；○ ■ SCUなし
心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専門的検査の24時間対応；× ■ 経皮的冠動脈形成術を年間200症例以上実施；× ■ 救急入院患者の受入実績がある；○ ■ 心臓血管外科に常勤医を配置；× ■ 冠動脈バイパス術を実施；× ■ CCUなし 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専門的検査の24時間対応；○ ■ 経皮的冠動脈形成術を年間200症例以上実施；× ■ 救急入院患者の受入実績がある；○ ■ 心臓血管外科に常勤医を配置；× ■ 冠動脈バイパス術を実施；× ■ CCUなし
糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> ■ 糖尿病の専門的検査、専門的治療の実施；○ ■ 専門職種チームによる教育入院の実施；○ ■ 糖尿病患者の妊娠への対応；○ ■ 常勤の専門医；○ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 糖尿病の専門的検査、専門的治療の実施；○ ■ 専門職種チームによる教育入院の実施；○ ■ 糖尿病患者の妊娠への対応；○ ■ 常勤の専門医；○
精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> ■ 心療内科あり 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 精神疾患の身体合併症への対応が可能 ■ 精神疾患の専門スタッフ 作業療法士

両病院の5事業に対する提供体制は以下のとおりで、救急機能はおおむね同程度ですが、小児医療、及び周産期医療については、市立伊丹病院の医療提供体制が厚くなっています

市立伊丹病院と近畿中央病院の医療提供体制(5事業への対応)

	市立伊丹病院	近畿中央病院
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2次救急医療機関(内科・外科の病院群輪番制へ参加) ■ 救急件数 10,170件 (うち救急搬送件数 3,562件) (平成28年度) ■ 診療体制; 救急科なし、時間外救急(平日時間外、土日祝日) ■ 救命救急センターなし、ICU5床 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2次救急医療機関(内科・外科の病院群輪番制へ参加) ■ 救急件数 6,874件 (うち救急搬送件数 2,216件) (平成28年度) ■ 診療体制; 救急科なく総合診療科で対応、HCU、時間外救急(平日時間外、土日祝日) ■ 救命救急センターなし、HCU4床
小児医療 (小児救急含む)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 阪神北圏域の小児救急病院群輪番制へ参加 ■ 阪神北広域こども急病センターからの患者受入件数 212件(平成28年度) ■ 小児地域医療センター(24時間365日小児救急への対応が可能な施設) ■ 小児病棟(小児入院医療管理料3算定)あり ■ 延入院患者数;7,020人 延外来患者数;12,513人 (平成28年度) ■ NICU10床、PICUなし 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 阪神北圏域の小児救急病院群輪番制へ参加 ■ 阪神北広域こども急病センターからの患者受入件数 32件(平成28年度) ■ 小児科あり、外来(外来)、入院受け入れ ■ 延入院患者数;1,681人 延外来患者数;4,764人 (平成28年度) ■ NICUなし、PICUなし
災害医療	—	—
* 宝塚市立病院が災害拠点病院、兵庫DMAT指定病院		
周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ■ 周産期医療システムの協力病院(周産期母子センターと協力してハイリスクの診療) ■ 分娩件数;285件(平成28年度) ■ MFICUなし 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 周産期医療システムの協力病院(周産期母子センターと協力してハイリスクの診療) ■ 分娩件数; 196件(平成28年度) ■ MFICUなし
へき地医療	—	—

診療科別患者数は、両病院ともに内科系の患者が主な構成となっていますが、両病院を比較すると、市立伊丹病院は、整形外科、小児科が多く、近畿中央病院は、眼科、神経内科が多くなっています

市立伊丹病院と近畿中央病院の主な経営指標(平成28年度)

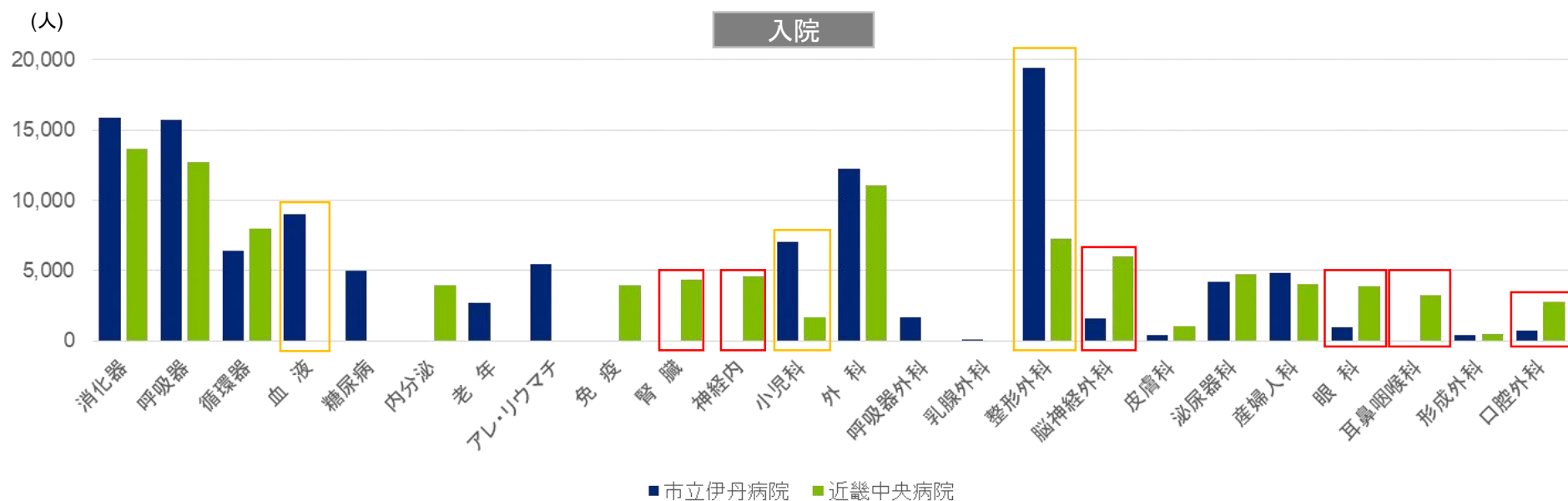
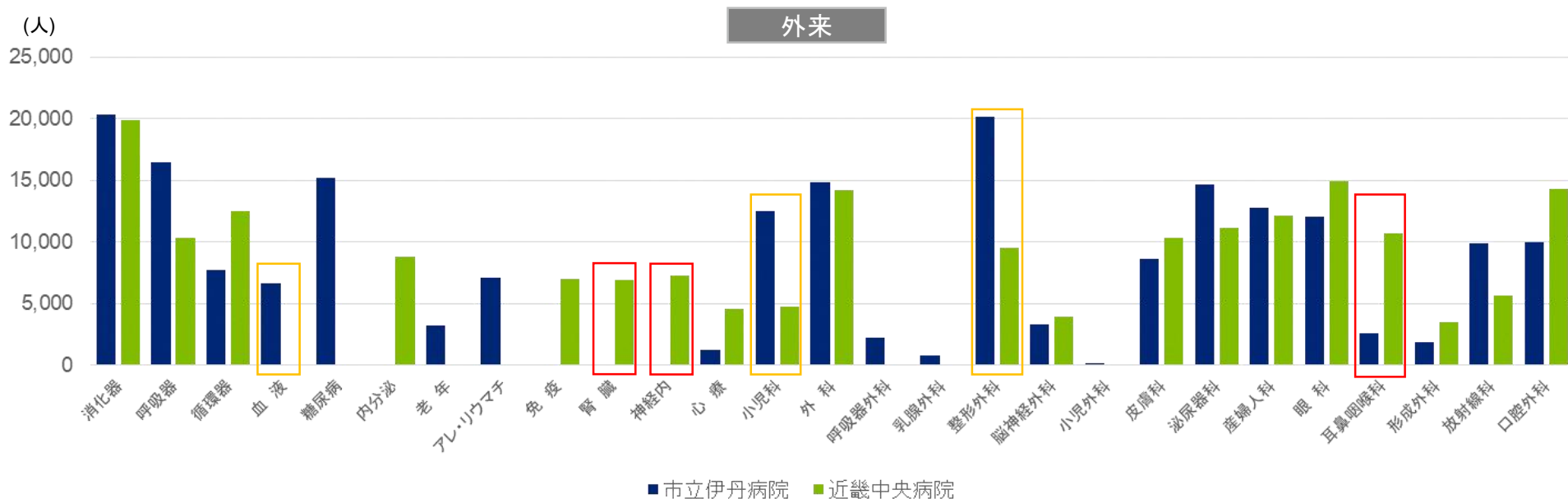
区分		市立伊丹病院	近畿中央病院
稼働病床数		(~9/30) 377床 (10/1~) 402床	398床 (健康管理37床含む)
入院	【許可】病床利用率(※)	75.1%	59.6%
	【稼働】病床利用率(※)	79.9%	67.4%
	延入院患者数(※)	113,556人	97,561人
	1日あたり入院患者数(※)	311.1人/日	243.3人/日
	新規患者数(※)	10,211人	8,757人
外来	延外来患者数	204,757人	192,771人
	1日あたり外来患者数	842.6人/日	793.3人/日
	新規患者数	19,374人	19,765人
入院単価(※)		61,022円	53,721円
外来単価(※)		14,107円	13,443円
平均在院日数(※)		11.1日	10.2日
紹介率(※)		72.9%	60.6%

市立伊丹病院と近畿中央病院の診療科別患者数(平成28年度)

科名	外来		入院		
	市立伊丹病院	近畿中央病院	市立伊丹病院	近畿中央病院	
内科	消化器	20,346	19,882	15,855	13,670
	呼吸器	16,495	10,388	15,717	12,732
	循環器	7,718	12,503	6,383	7,981
	血液	6,643	-	9,014	-
	糖尿病	15,228	-	4,955	-
	内分泌	-	8,813	-	3,975
	老年	3,210	-	2,679	-
	アレルギー疾患リウマチ	7,132	-	5,481	-
	免疫	-	6,978	-	3,964
	腎臓	-	6,974	-	4,389
	神経内	-	7,280	-	4,611
	心療	1,235	4,570	0	0
	小児科	12,513	4,764	7,020	1,681
外科	14,862	14,244	12,235	11,052	
呼吸器外科	2,234	-	1,654	-	
乳腺外科	791	-	2	-	
整形外科	20,158	9,559	19,461	7,260	
脳神経外科	3,306	3,979	1,570	5,995	
小児外科	154	0	-	-	
皮膚科	8,682	10,384	406	1,016	
泌尿器科	14,720	11,195	4,170	4,749	
産婦人科	12,821	12,151	4,806	4,041	
眼科	12,097	14,949	969	3,908	
耳鼻咽喉科	2,575	10,669	0	3,223	
形成外科	1,933	3,472	417	528	
放射線科	9,866	5,642	0	0	
口腔外科	10,038	14,345	762	2,786	
計	204,757	192,771	113,556	97,561	

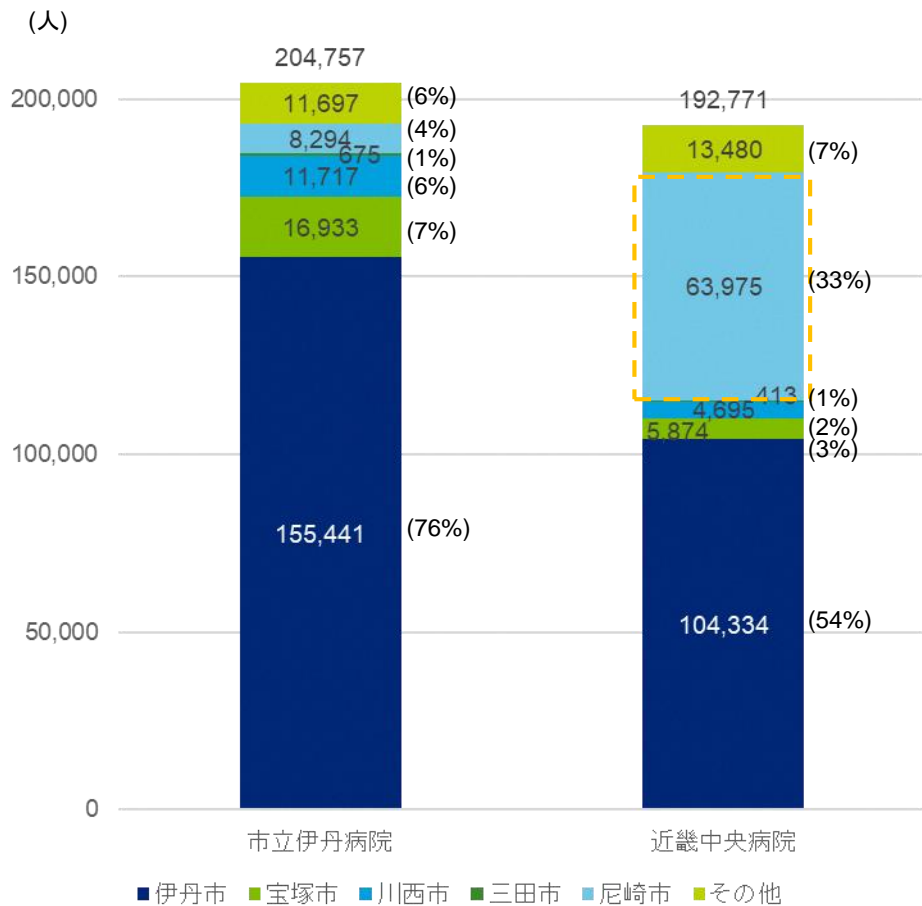
(※)は近畿中央病院の健康管理を除いた数値を表示

市立伊丹病院と近畿中央病院の診療科別患者数(平成28年度)

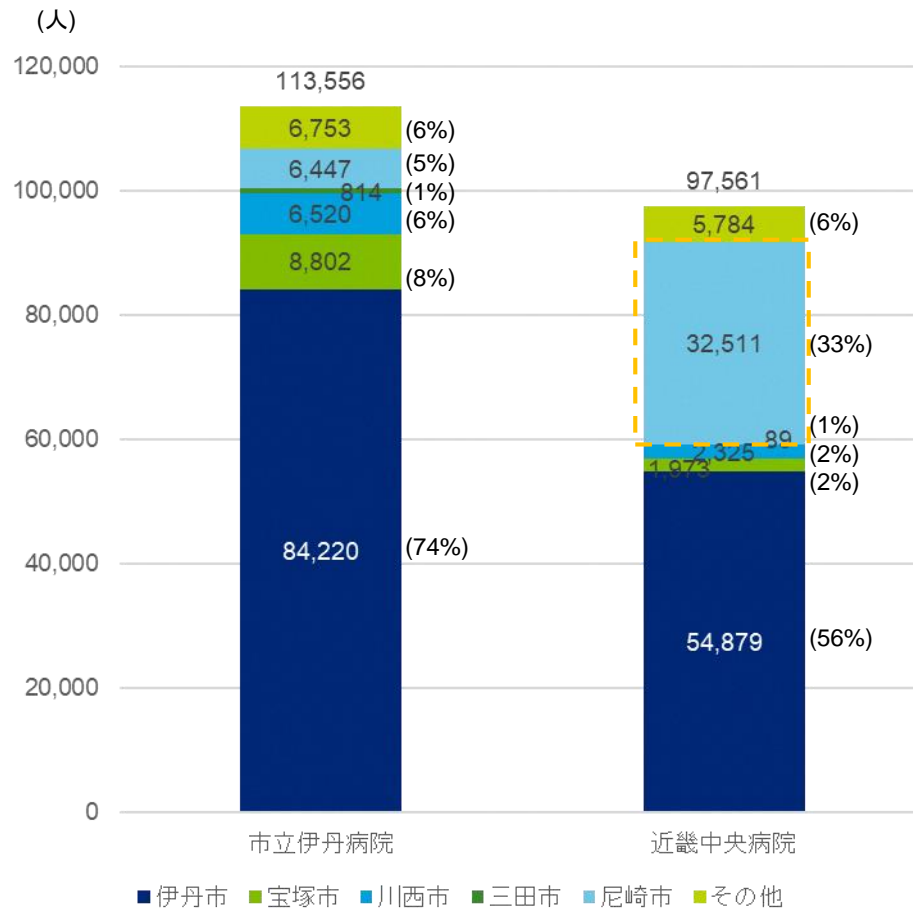


地域別では、外来・入院とも、市立伊丹病院は主に伊丹市、近畿中央病院は伊丹市、尼崎市から多くの患者を受け入れています

市立伊丹病院と近畿中央病院の地域別患者数
(平成28年度外来延患者数)



市立伊丹病院と近畿中央病院の地域別患者数
(平成28年度入院延患者数)



手術件数については、両病院を比較すると、特に市立伊丹病院では整形外科、近畿中央病院では眼科で多い構成となっています

市立伊丹病院と近畿中央病院の診療科別救急患者数
(平成28年度)

科名		市立伊丹病院	近畿中央病院
内科	内科	6,449	2,724
	消化器	-	-
	循環器	56	889
	血液	-	-
	糖尿病	-	-
	内分泌	-	-
	老年	-	-
	アレルギー疾患	-	-
	リウマチ	-	-
	免疫	-	-
	腎臓	-	-
	神経内	-	-
	心療	-	-
	小児科	1,067	330
外科	862	666	
呼吸器外科		-	
乳腺外科		-	
整形外科	1,052	339	
脳神経外科	188	357	
皮膚科	42	183	
泌尿器科	79	170	
産婦人科	353	579	
眼科	2	84	
耳鼻咽喉科		301	
形成外科	2	65	
放射線科		32	
口腔外科	18	155	
計	10,170	6,874	

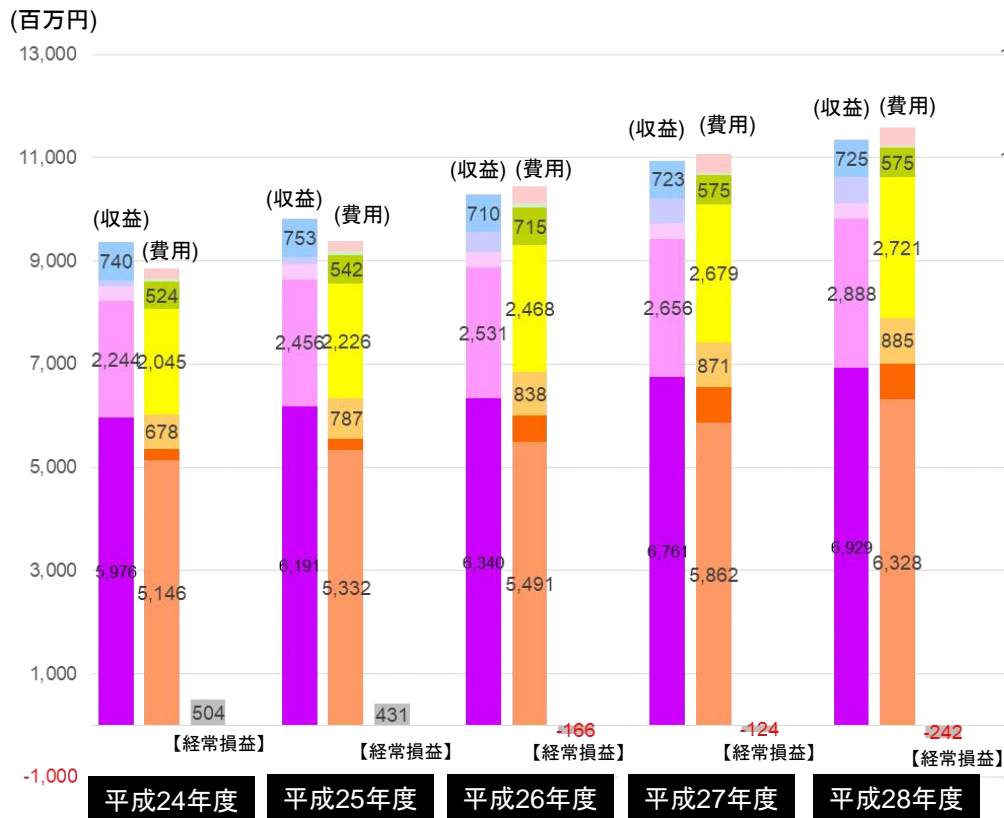
市立伊丹病院と近畿中央病院の診療科別手術件数
(平成28年度)

科名		市立伊丹病院	近畿中央病院
内科	消化器	48	
	呼吸器		
	循環器	11	3
	血液		-
	糖尿病		-
	内分泌		
	老年		-
	アレルギー疾患		-
	リウマチ		-
	免疫	-	
	腎臓	-	35
	神経内	-	
	小児科		
	外科	585	542
呼吸器外科	129	52	
乳腺外科	94	78	
整形外科	1,169	392	
脳神経外科	64	80	
皮膚科	15	6	
泌尿器科	487	268	
産婦人科	323	192	
眼科	627	1,399	
耳鼻咽喉科		203	
形成外科	197	52	
口腔外科	58	191	
計	3,807	3,493	

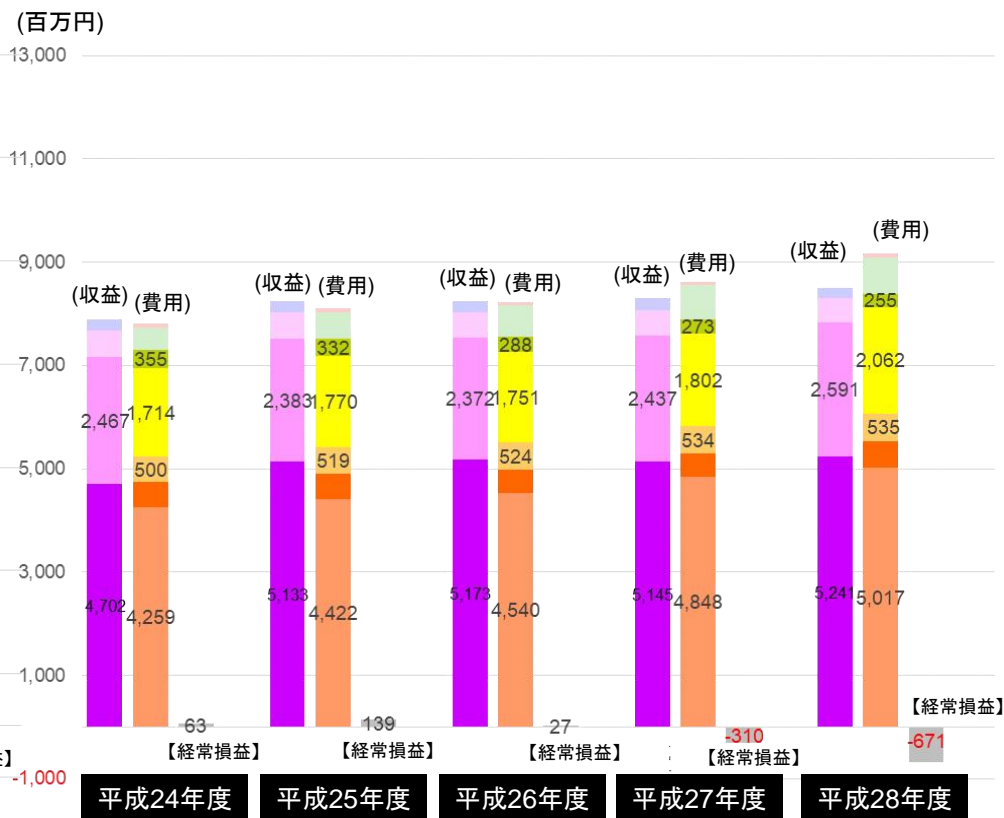
※両病院とも、循環器以外の内科系は「内科」で計上

近畿中央病院は、平成27年7月に開院した尼崎総合医療センターの影響を受けています。なお、平成29年度決算の経常損益は、市立伊丹病院は約1億円の赤字の見込みで、近畿中央病院も赤字となっており、依然厳しい状況が続いています

市立伊丹病院の経営状況(平成24～28年度)



近畿中央病院の経営状況(平成24～28年度)



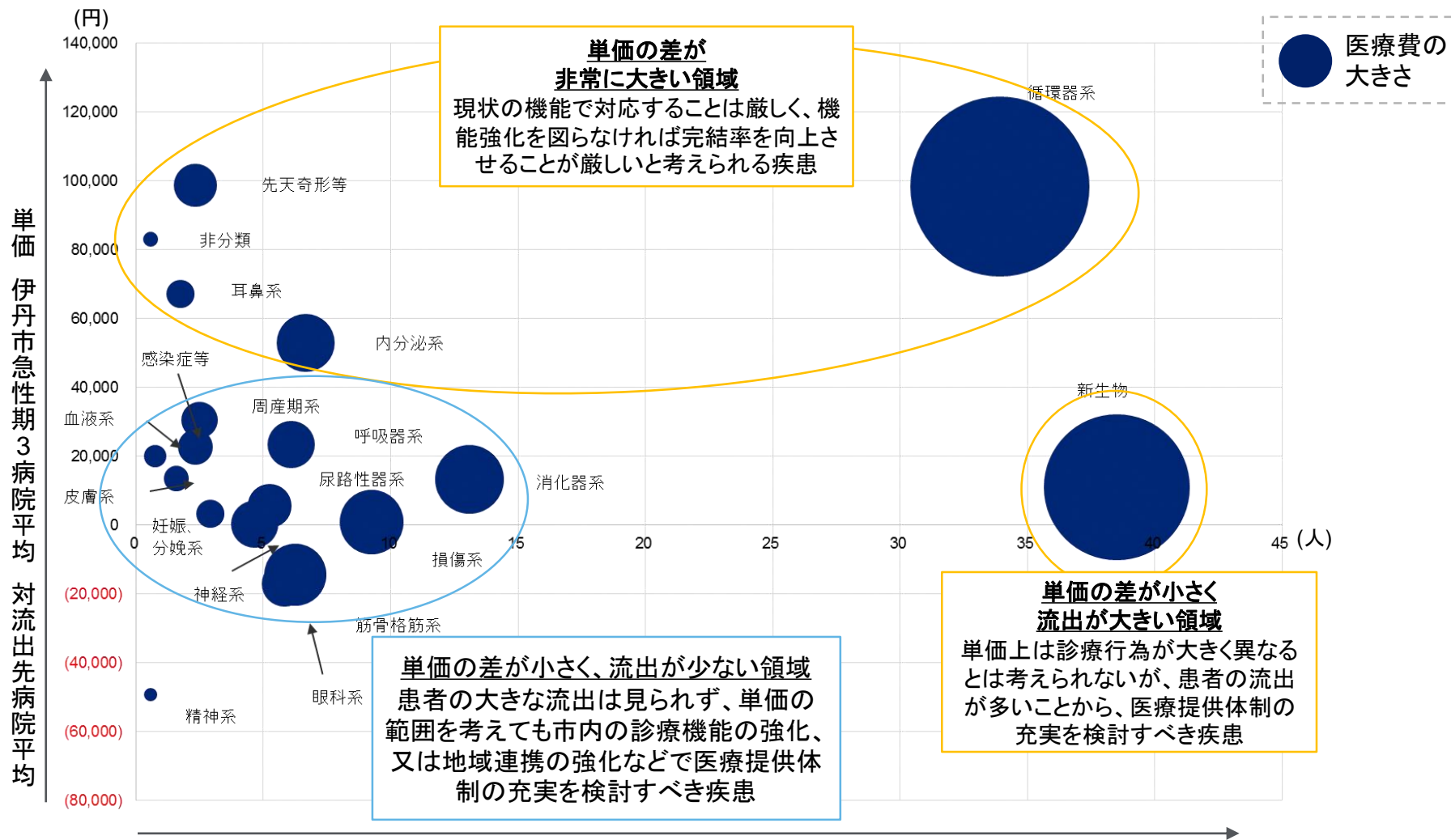
- 入院収益
- 外来収益
- その他
- その他収益
- うち他会計補助金
- 入院収益
- 外来収益
- その他
- その他収益
- うち他会計補助金
- 給与費
- 減価償却費
- 委託費
- 材料費
- 経費(委託費除く)
- 給与費
- 減価償却費
- 委託費
- 材料費
- 経費(委託費除く)
- その他
- その他費用
- 経常損益
- 経常損益

市立伊丹病院と近畿中央病院の連携のあり方

連携のあり方を考える上では、特に、市外への流出の大きい循環器系疾患、新生物に対し、どのように医療提供体制の充実を図るのが重要であると考えられます

《再掲》第一回 あり方検討委員会資料より

伊丹市 疾患別入院患者流出状況



流出人数 伊丹市外へ流出した患者数(1か月あたり)

5疾病において、がんの診療範囲の強化、重篤で救急を要する脳卒中、心血管疾患への体制を強化し、阪神北圏域で不足する医療提供機能の強化を目指します

市立伊丹病院と近畿中央病院の連携により目指すべき医療提供体制(5疾病5事業への対応)

		市立伊丹病院、近畿中央病院の連携
5 疾 病	がん	<ul style="list-style-type: none"> ■ 診療体制、機器の整備の強化で現状対応が十分でない部位への対応により、北圏域における完結率を向上させる ■ 緩和ケアにかかる医療の提供体制の充実を図る
	脳血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外科的治療の診療体制の強化、救急に対する迅速な対応により、北圏域における完結率を向上させる
	心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> ■ 心臓血管外科の設立、外科的治療と救急に対する迅速な対応により、北圏域における完結率を向上させる
	糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現状の機能を維持し、急性期治療が必要な患者に対する治療の提供、地域の医療機関と連携し役割分担
	精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> ■ 身体合併症に対する急性期医療が必要な患者へ対応しつつ、精神専門病院との円滑な連携を図る
5 事 業	救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ■ 三次救急医療機関として、より重篤な救急患者を受け入れ、北圏域における完結率を向上させる
	小児医療	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小児科病棟を維持し、入院の必要な小児の受け入れ、小児救急医療の充実を図る
	災害医療	<ul style="list-style-type: none"> ■ 南圏域の高度急性期病院の有事におけるセーフティネットとしての役割を担う
	周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ■ 母子ともに高度医療の必要な患者の受け入れ、NICU、MFICUなど周産期にかかる集中治療室の設置をめざす
	へき地医療	—

